

□海外文献紹介□

**活動期 Crohn 病の Prednisolone
と Azathioprine の併用治療法と
Prednisolone 単独療法**

Azathioprine combined with prednisolone or monotherapy with prednisolone in active Crohn's disease: Ewe K, et al (Gastroenterology 105: 367-372, 1993)

活動期の Crohn 病 (CD) 治療に対する Azathioprine (AZA) の効果はいまだに確立されていない。AZA の維持療法で再発が少なくなるという報告や、Sulfasalazine や Prednisolone (PSL) 無効例で AZA が有効であったという報告もある。本研究は、PSL・AZA 併用と PSL 単独療

法を比較したものである。

臨床所見、内視鏡所見、注腸所見、組織学的所見に基づいて CD と診断された 762 人のうち、CDAI (CD 活動性指数) 150 以上の CD 患者 42 人を 2 群に分け、両群ともに PSL 60 mg 投与し、7 週間かけて漸減して維持量 10 mg を本研究期間中続け、必要に応じて 20 mg まで増量した。加えて第 1 群には AZA 2.5 mg/kg を、第 2 群には偽薬を 16 週間投与した。

CDAI の差は 8 週目から明らかになり、4 か月の治療期間後に CDAI が 150 以下に緩解したものは AZA + PSL 群 76% (16/21)、PSL 単独群 38% (8/21) であった ($p=0.03$)。

PSL 1 日当たりの平均使用量はそれぞれ 20.9 mg, 26.7 mg であった ($p=0.02$)。研究終了時の検査データで両群間に差がみられたのは CRP、白血球数、 α_2 グロブリンである。AZA 群で悪心、嘔吐のため中止した 1 例があるほかは重大な副作用はみられなかった。

活動期の CD において、AZA の併用は PSL 単独より効果があり、PSL の使用が少量ですみ、より早く軽快する。PSL を減量するたびに悪化するような症例では AZA の有効性が高い。

(関東通信病院消化器内科

秋山 佳子 抄)